市民の皆様へ

2030年の稲城に向けたご提案を受け付けています！

稲城市では2030年の稲城に向けて、長期総合計画を策定します。
あなたの考える2030年の稲城の将来像について、お聞かせください。

グループ・団体別懇談会を開催します

希望するグループや団体との懇談の席を設け、市職員がお話を伺います。是非お申込みください。

対　象　市内在住・在勤・在学の５人以上のグループ・団体
必要事項　①希望日時　②開催会場
③代表者住所・氏名　④電話番号
申込先　市役所５階　企画政策課窓口
電話 042-378-2111、FAX　042-377-4781
メール chou_kei5@city.inagi.lg.jp

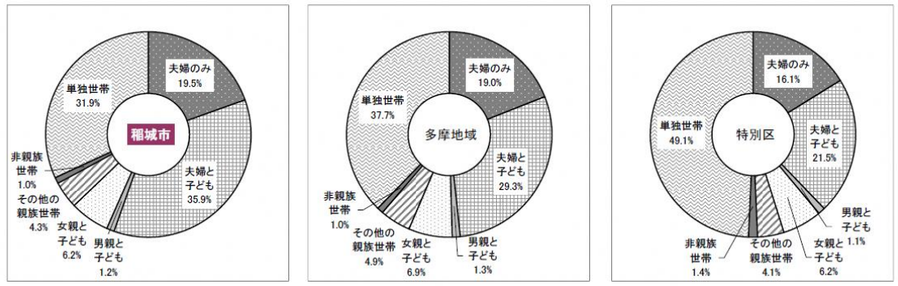
ホームページからのご提案はこちら

https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgi-bin/form_enq/formmail.cgi?d=chouki

個別の返答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

稲城市ちょっとメモ

家族類型の世帯割合は？



稲城市・多摩地域・特別区の家族類型の世帯割合を比較すると、稲城市は「夫婦と子ども」の割合が35.9%と最も高く、「単独世帯」は31.9%と最も低くなっています。その他の世帯割合には大きな差はありません。

『多摩地域データブック（H29年度）』

これからの開催予定

第12回　令和元年５月31日（金）
時間：19：00から※概ね２時間程度を予定しています。
会場：地域振興プラザ４階　大会議室
・市民意見公募結果について確認し、最終的なまとめに向けた討議をします。

2030年の稲城を描く
発行　稲城市
編集　企画部 企画政策課 長期総合計画担当
〒206-8601　稲城市東長沼2111
☎042-378-2111（代表）　内線532
e-mail　chou_kei5@city.inagi.lg.jp

稲城市長期総合計画

2030年の稲城を描く

No.11

市民会議　4月19日開催

第11回　市民会議を開催しました

４月19日、地域振興プラザにおいて「2030年の稲城を描く市民会議」第11回を開催しました。
第10回での討議結果に基づき見直した「市民会議提言書（素案）」について、そのまとめ方、表現の仕方などを全員で話し合い、「市民会議提言書（案）」として出来上がりました。
今後「市民会議提言書（案）」は市民意見公募に付され、市民から出された意見は第12回市民会議で検討され、最終案とする予定です。

①第10回市民会議協議に基づく修正案を作成し、メンバーに事前送付。
②第11回市民会議開催前に、メンバーから事前に意見の提出。
③第11回市民会議では、事前意見を中心に協議・検討し、修正を承認。

『市民会議提言書（案）』がまとまりました！

提言書（素案）への事前意見

○市役所と JR 稲城長沼駅を結ぶ稲城銀座とでも呼ばれるようなハイカラな街路の新設が必要。広い歩道と並木で区分された車道があって、両側におしゃれな店舗が並び、赤バスが運行を始めてくれれば最高。

○高齢者＝サポートが必要な人という前提ではなく、健康な高齢者＝地域に有益な人材というような視点での記載も欲しい。

○高齢者グループ＋ボランティアの構図になっている印象が強いが、助け合い（共助）の中で生き生きと暮らせるイメージとなると良い。繋がりや土いじりなどで健康寿命が伸びるといった話もよく聞く。コミュニティ、農、緑といった他のテーマとも通じることなので、その辺りも入れられるとなお良い。

○「稲城の魅力を活用した観光振興の取り組みが期待されます。さらに観光の促進により交流人口や関係人口が増え、」という部分に違和感がある。観光振興については賛否両論あったので、そういった意見にも配慮して貰いたい。稲城の魅力の発信によって関係人口や定住人口が増え地域経済が活性化することは期待したいけれども、観光振興とはちょっと違うものと考えている。シビックプライドによって市内に稲城の魅力が伝わって多くの人が稲城に足を運んで活動したり移り住んだりして、地域経済が活性される未来を期待したい。

○農に健康寿命を伸ばす効果も期待するといった文言があると良い。「こくベジの取り組みを参考に」とあるが、多摩地域にはこくベジ以外にも参考になる事例がいくつもある。民間事業による成功事例もあるので固定の取り組みではなく、近隣の都市農業の取り組みを参考にといった表現の方が良いのでは。

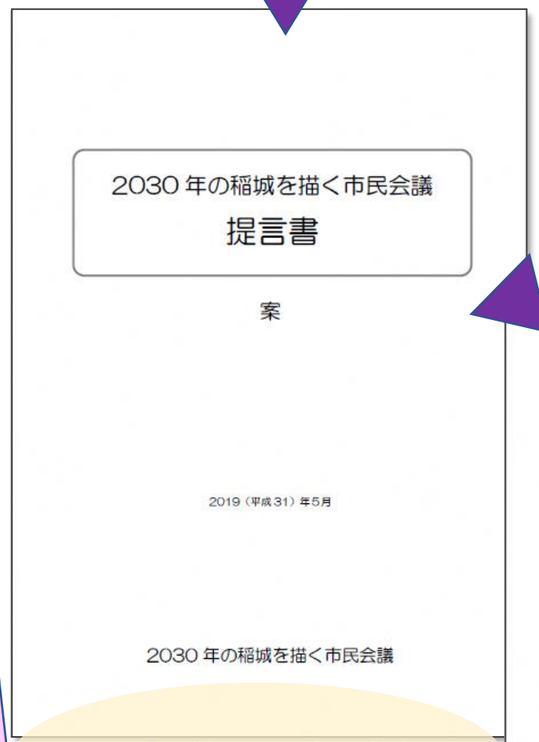
○「ほどよく田舎」は梨やぶどうでさらに農業の実態について詳しく説明されているけれども、「ほどよく都会」はあまり具体策がないようで気になる。

○全体的にボランティアという表現がやはり気になる。無償の活動というイメージがどうしても付きまとってしまうが、自発的な活動というイメージで捉えたとしても事業として確立できるならその方が持続可能ではないかと思う。現在は税金投入やボランティア依存でしか回せない課題に対しても、地域に根ざした多様な仕事やチャレンジが生まれることで解決できることを期待したい。

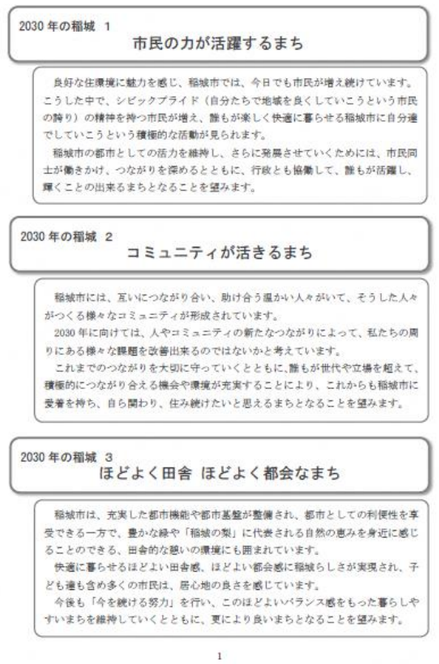
○シビックプライドを中心に据えて 3 つのまちの姿を提案するところは話し合いの経緯からとてもしっくりくると感じるが、後半になるにつれてシビックプライドをイメージさせるような表現が薄れていっているような印象がある。

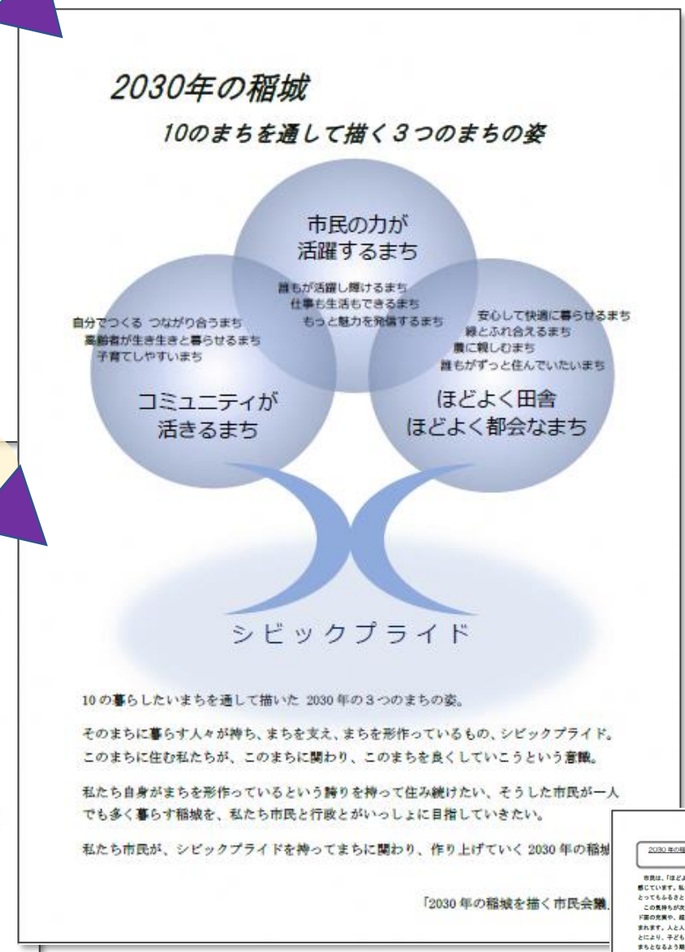
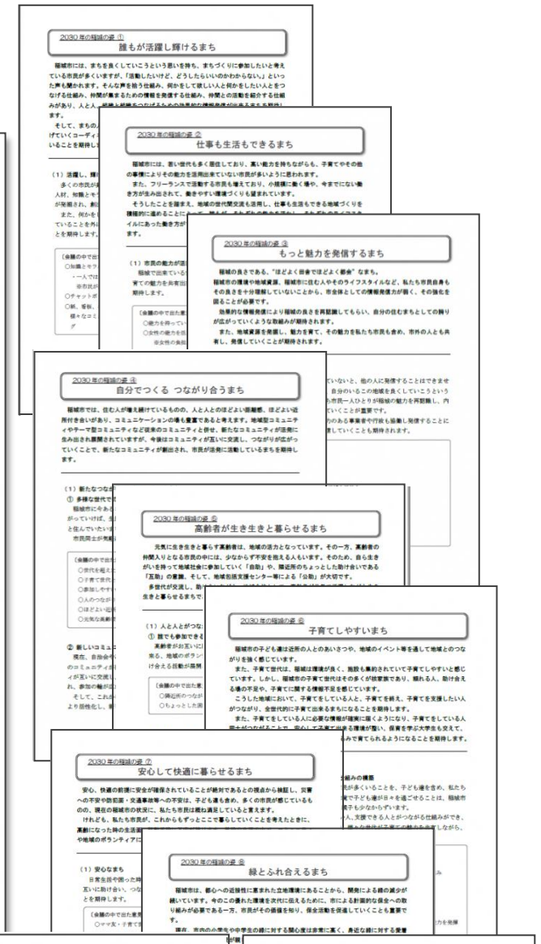
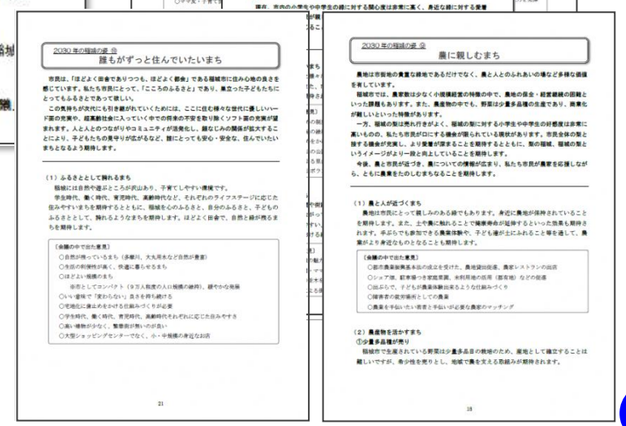
○シビックプライドについてはあくまでも 2030 年の稲城のまちの姿になるための手段の一つと理解している。3 本の柱の中心に来るのに非常に違和感がある。キーワードの一つとする、10 の姿の個別記載部分に載せる等変更を。

○できる限り市民の賛同を得られ、小中学生にとってもわかりやすい、イメージしやすい 2030 年の稲城を描くため、表紙裏のページが一番重要だと思う。



■「事前意見」に基づく協議
■提言書の修正検討



市民意見公募をします！（5/1～5/17）

市民会議（第 12 回）で市民からのご意見を検討し、最終案としての確定に向けた協議を行ないます！